

受 検 番 号	氏 名
.....	

令和 4 年度 (後期)

# 2 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題

令和 4 年 11 月 13 日 (日)

## [ 注 意 事 項 ]

- ページ数は、表紙を入れて 18 ページです。
- 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
- 問題の解答の仕方は、次によってください。
  - [No. 1]～[No. 14]までの 14 問題のうちから、9 問題を選択し、解答してください。
  - [No. 15]～[No. 17]までの 3 問題は、全問題を解答してください。
  - [No. 18]～[No. 28]までの 11 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
  - [No. 29]～[No. 38]までの 10 問題は、全問題を解答してください。
  - [No. 39]～[No. 42]までの 4 問題は、全問題を解答してください。
  - [No. 43]～[No. 50]までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
- 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
- 問題番号 [No. 1]～[No. 38]、[No. 43]～[No. 50]は、四肢一択式です。
 

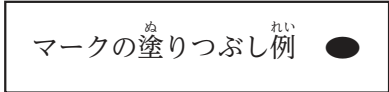
正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

  - 問題番号 [No. 39]～[No. 42]は、施工管理法の能力問題で四肢二択式です。
 

正解と思う肢の番号を 2 つ選んでください。

なお、選んだ肢の番号が 2 つとも正しい場合のみ正答となります。
- 解答の記入に当たっては、次によってください。
  - 解答は、選んだ番号を右のマークの塗りつぶし例に従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。
  - マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
- 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
- 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
- この問題用紙は、第一次検定の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。
 

途中退席する場合は、持ち帰りできません。





※ 問題番号 [No. 1] ~ [No. 14] までの14問題のうちから、9問題を選択し、解答してください。

[No. 1] 冬季暖房時の結露に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 外壁の室内側の表面結露を防止するためには、室内側の表面温度を露点温度以下に下げないようにする。
2. 室内側の表面結露を防止するためには、外壁や屋根等に熱伝導率の高い材料を用いる。
3. 外壁の室内側の表面結露を防止するためには、室内側表面に近い空気を流動させる。
4. 室内側が入隅となる外壁の隅角部は、室内側に表面結露が生じやすい。

[No. 2] 照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 光束は、視感度に基づいて測定された単位時間当たりの光のエネルギー量である。
2. 輝度は、光源の光の強さを表す量である。
3. 天井や壁等の建築部位と一体化した照明方式を、建築化照明という。
4. 照明対象となる範囲外に照射されるような漏れ光によって引き起こされる障害のことを、光害という。

[No. 3] 色に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 純色とは、各色相の中で最も明度の高い色をいう。
2. 色彩によって感じられる距離感は異なり、暖色は寒色に比べて近くに感じられやすい。
3. 印刷物や塗料等の色料の三原色を同量で混色すると、黒に近い色になる。
4. 明度と彩度を合わせて色の印象を表したものを、トーン(色調)という。

[No. 4] 木造在来軸組構法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 床等の水平構面は、水平荷重を耐力壁や軸組に伝達できるよう水平剛性を十分に高くする。
2. 胴差は、垂木を直接受けて屋根荷重を柱に伝えるための部材である。
3. 筋かいをたすき掛けにするためにやむを得ず欠き込む場合は、筋かいに必要な補強をおこなう。
4. 筋かいの端部は、柱と梁その他の横架材との仕口に接近して、ボルト、かすがい、釘その他の金物で緊結する。

[No. 5] 鉄筋コンクリート構造の配筋に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 梁の幅止め筋は、腹筋間に架け渡したもので、あばら筋の振れ止め及びはらみ止めの働きをする。
2. 梁は、全スパンにわたり主筋を上下に配置した複筋梁とする。
3. 柱の帯筋は、柱の上下端部より中央部の間隔を密にする。
4. 柱の帯筋は、主筋を取り囲むように配筋したもので、主筋の座屈を防止する働きをする。

[No. 6] 鉄骨構造の接合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 高力ボルト接合の形式には、摩擦接合、引張接合、支圧接合等があり、このうち摩擦接合が多く用いられる。
2. 支圧接合とは、ボルト軸部のせん断力と部材の支圧によって応力を伝える接合方法である。
3. 完全溶込み溶接とは、溶接部の強度が母材と同等以上になるように全断面を完全に溶け込ませる溶接である。
4. 隅肉溶接の有効長さは、隅肉溶接の始端から終端までの長さである。

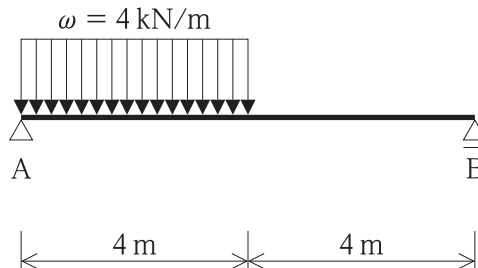
[No. 7] 杭基礎に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 場所打ちコンクリート杭工法には、アースオーガーを使用するプレボーリング拡大根固め工法がある。
2. アースドリル工法は、オールケーシング工法やリバース工法に比べて、狭い敷地でも作業性がよい。
3. 節部付きの遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（節杭）は、杭本体部に外径が軸径よりも大きい節部を多数設けたもので、主に摩擦杭として用いられる。
4. 外殻鋼管付きのコンクリート杭（SC杭）は、大きな水平力が作用する杭に適している。

[No. 8] 建築物の構造設計における荷重及び外力に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 積雪荷重は、雪下ろしを行う慣習のある地方では、低減することができる。
2. 風力係数は、風洞試験によって定める場合のほか、建築物の断面及び平面の形状に応じて定められた数値とする。
3. 風圧力は、地震力と同時に作用するものとして計算する。
4. 地震力は、建築物の固定荷重又は積載荷重を減ずると小さくなる。

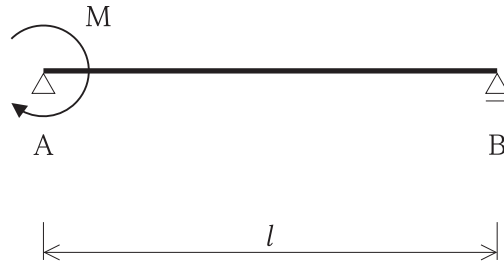
[No. 9] 図に示す単純梁 AB に等分布荷重  $\omega$  が作用するとき、支点 B にかかる鉛直反力の値の大きさとして、正しいものはどれか。



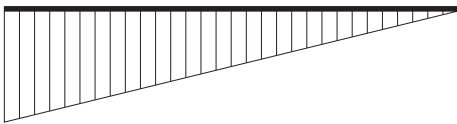
1. 2 kN
2. 4 kN
3. 8 kN
4. 12 kN

[No. 10] 図に示す単純梁 AB の点 A にモーメント荷重  $M$  が作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。

ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



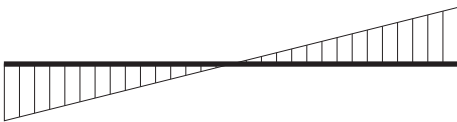
1.



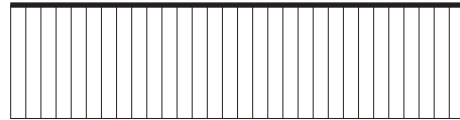
2.



3.



4.



[No. 11] コンクリートに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの引張強度は、圧縮強度に比べて著しく小さい。
2. コンクリートの線膨張係数は、常温では、鉄筋の線膨張係数とほぼ等しい。
3. コンクリートは、大気中の炭酸ガスやその他の酸性物質の浸透によって徐々に中性化する。
4. コンクリートは、不燃性であり、長時間火熱を受けても変質しない。

[No. 12] 木材に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 木材の強度は、含水率が同じ場合、密度の大きいものほど大きい。
2. 針葉樹は、広葉樹に比べて軽量で加工がしやすい。
3. 節は、断面の減少や応力集中をもたらし、強度を低下させる。
4. 心材は、辺材に比べて腐朽菌や虫害に対して抵抗が低い。

[No. 13] 日本産業規格 (JIS) に規定するセラミックタイルに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 表張りユニットタイルとは、多数個並べたタイルの表面に、表張り台紙を張り付けて連結したものをいう。
2. 裏あしは、セメントモルタル等との接着をよくするため、タイルの裏面に付けたリブ又は凹凸のことをいう。
3. 素地は、タイルの主体をなす部分をいい、施ゆうタイルの場合、表面に施したうわぐすりも含まれる。
4. タイルには平物と役物があり、それぞれ形状は定形タイルと不定形タイルに区分される。

[No. 14] 防水材料に関する記述として、最も不適当なものはどれか。





1. シート防水には、合成ゴム系やプラスチック系のシートが用いられる。
2. 網状アスファルトルーフィングは、天然又は有機合成繊維で作られた粗布にアスファルトを浸透、付着させたものである。
3. 塗膜防水は、液状の樹脂が塗布後に硬化することで防水層を形成する。
4. 砂付あなあきアスファルトルーフィングは、防水層と下地を密着させるために用いるものである。

※ 問題番号 [No. 15] ~ [No. 17] までの3問題は、全問題を解答してください。

[No. 15] 測量に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 水準測量は、地表面の高低差を求める測量で、レベル等を用いる。
2. 角測量は、水平角と鉛直角を求める測量で、セオドライト等を用いる。
3. 平板測量は、測点の距離と高さを間接的に求める測量で、標尺等を用いる。
4. 距離測量は、2点間の距離を求める測量で、巻尺等を用いる。

[No. 16] 日本産業規格 (JIS) に規定する構内電気設備の名称とその配線用図記号の組合せとして、不適当なものはどれか。

1. 換気扇 
2. 蛍光灯 
3. 3路点滅器 
4. 情報用アウトレット 

[No. 17] 給排水設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 水道直結直圧方式は、水道本管から分岐した水道引き込み管に増圧給水装置を直結し、建物各所に給水する方式である。
2. ウォーターハンマーとは、給水配管内の水流が急激に停止したとき、振動や衝撃音等が生じる現象をいう。
3. 公共下水道の排水方式には、汚水と雨水を同一系統で排除する合流式と、別々の系統で排除する分流式がある。
4. 排水トラップの破封を防止するため、排水系統に通気管を設ける。



※ 問題番号 [No. 18] ~ [No. 28] までの11問題のうちから、8問題を選択し、解答してください。

[No. 18] 土工事の埋戻し及び締固めに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 埋戻し土に粘性土を用いるため、余盛りの量を砂質土を用いる場合より多くした。
2. 埋戻し土は、最適含水比に近い状態で締め固めた。
3. 入隅等狭い箇所での締固めを行うため、振動コンパクターを使用した。
4. 動的荷重による締固めを行うため、重量のあるロードローラーを使用した。

[No. 19] 鉄筋のかぶり厚さに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 杭基礎におけるベース筋の最小かぶり厚さは、杭頭から確保する。
2. 腹筋を外付けするときの大梁の最小かぶり厚さは、幅止め筋の外側表面から確保する。
3. 直接土に接する梁と布基礎の立上り部の最小かぶり厚さは、ともに30mmとする。
4. 屋内では、柱と耐力壁の最小かぶり厚さは、ともに30mmとする。

[No. 20] 型枠工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 梁の側型枠の寸法をスラブ下の梁せいとし、取り付く底型枠の寸法を梁幅で加工した。
2. 柱型枠は、梁型枠や壁型枠を取り付ける前にチェーン等で控えを取り、変形しないようにした。
3. 外周梁の側型枠の上部は、コンクリートの側圧による変形防止のため、スラブ引き金物で固定した。
4. 階段が取り付く壁型枠は、敷き並べた型枠パネル上に現寸で墨出しをしてから加工した。

[No. 21] コンクリートの調合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 細骨材率は、乾燥収縮によるひび割れを少なくするためには、高くする。
2. 単位セメント量は、水和熱及び乾燥収縮によるひび割れを防止する観点からは、できるだけ少なくする。
3. AE減水剤を用いると、所定のスランプを得るのに必要な単位水量を減らすことができる。
4. 川砂利と碎石は、それぞれが所定の品質を満足していれば、混合して使用してもよい。

[No. 22] 在来軸組構法における木工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 真壁の柱に使用する心持ち材には、干割れ防止のため、見え隠れ部分に背割りを入れた。
2. 洋式小屋組における真束と棟木の取合いは、棟木が真束より小さかったため、長ほぞ差しとした。
3. 建入れ直し完了後、接合金物や火打材を固定し、筋かいを取り付けた。
4. 軒桁の継手は、柱心から持ち出して、追掛大栓継ぎとした。

[No. 23] 壁タイル密着張り工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 振動工具は、タイル面に垂直に当てて使用した。
2. 振動工具による加振は、張付けモルタルがタイル周辺からはみ出すまで行った。
3. 張付けモルタルの1回に塗り付ける面積は、60分でタイルを張り終える面積とした。
4. 目地詰めは、タイル張付け後24時間以上経過してから行った。

[No. 24] ステンレス鋼板の表面仕上げに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 機械的に凹凸の浮出し模様を施した仕上げを、ヘアラインという。
2. 冷間圧延後、熱処理、酸洗いを行うことで、にぶい灰色のつや消し仕上げにしたものを、No. 2D という。
3. 化学処理により研磨板に図柄や模様を施した仕上げを、エッチングという。
4. 研磨線がなくなるまでバフ仕上げをした最も反射率の高い仕上げを、鏡面という。

[No. 25] コンクリート壁下地のセメントモルタル塗りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 下塗りは、14日以上放置し、十分にひび割れを発生させてから次の塗付けにかかった。
2. 乾燥収縮によるひび割れの防止のため、保水剤を混和剤として使用した。
3. モルタルの1回の練混ぜ量は、60分以内に使い切れる量とした。
4. 上塗りモルタルの調合は、下塗りモルタルよりも富調合とした。

[No. 26] 鋼製建具に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. くつずりの材料は、厚さ 1.5 mm のステンレス鋼板とした。
2. 四方枠の気密材は、建具の気密性を確保するため、クロロプレンゴム製とした。
3. フラッシュ戸の組立てにおいて、中骨は 600 mm 間隔で設けた。
4. 大型で重量のある建具の仮止めは、位置調節用の金物を用いた。

[No. 27] 塗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りにおいて、下塗りには上塗りと同一材料を用いた。
2. 木部のクリヤラッカー塗りにおける着色は、下塗りのウッドシーラー塗布後に行った。
3. 高粘度、高濃度の塗料による厚膜塗装とするため、エアレススプレーを用いて吹き付けた。
4. 合成樹脂エマルジョンペイント塗りにおいて、天井面等の見上げ部分では研磨紙ずりを省略した。

[No. 28] フリーアクセスフロアに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 電算機室では、床パネルの四隅の交点に共通の支持脚を設けて支持する共通独立脚方式としたため、方杖を設けて耐震性を高めた。
2. 事務室では、1枚のパネルの四隅や中間に高さ調整のできる支持脚が付く、脚付きパネル方式とした。
3. 床パネルの各辺の長さが 500 mm だったため、幅及び長さの寸法精度は、 $\pm 0.5$  mm 以内とした。
4. 床パネル取付け後の水平精度は、隣接する床パネルどうしの高さの差を 2 mm 以下とした。

※ 問題番号 [No. 29] ~ [No. 38] までの10問題は、全問題を解答してください。

[No. 29] 事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 山留め工事の計画に当たって、周辺地盤の高低について調査することとした。
2. 工事用資材の搬入計画に当たって、幼稚園や学校の場所を確認し、輸送経路の制限の有無を調査することとした。
3. 土の掘削計画に当たって、振動が発生するため、近隣の商店や工場の業種を調査することとした。
4. 解体工事の計画に当たって、発生する木くずを処分するため、一般廃棄物の処分場所を調査することとした。

[No. 30] 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 塗料や溶剤等の保管場所は、管理をやすくするため、資材倉庫の一角を不燃材料で間仕切り、設置することとした。
2. 所定の高さを有し、かつ、危害を十分防止し得る既存の塀を、仮囲いとして使用することとした。
3. 工事用ゲートや通用口は必要な場合を除き閉鎖することとし、開放する場合は誘導員を配置することとした。
4. 工事現場の敷地周囲の仮囲いに設置する通用口には、内開き扉を設けることとした。

[No. 31] 労働基準監督署長に届け出なければならないものとして、不適当なものはどれか。

1. 延べ面積が10m<sup>2</sup>を超える建築物の除却
2. 現場で常時15人の労働者が従事するための特定元方事業者の事業開始報告
3. 設置期間が60日以上かつつり足場の設置
4. つり上げ荷重が3tのクレーンの設置

- [No. 32] 建築工事の工程計画及び工程管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
1. 工事に必要な実働日数に作業休止日を考慮した日数を、暦日という。
  2. 工期を横軸に取り、出来高の累計を縦軸とした進捗度グラフは、直線となる。
  3. ネットワーク工程表は、作業の順序関係、開始時期及び終了時期を明確にしたもので、工程の変化に対応しやすい。
  4. 工程管理においては、実施工程を分析検討し、その結果を計画工程の修正に合理的に反映させる。

- [No. 33] バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
1. 複雑な時間計算が不要であるため、作成しやすい。
  2. 工程上の重点管理しなければならない作業が判断しやすい。
  3. 各作業の開始時期、終了時期及び所要期間を把握しやすい。
  4. 出来高の累計を重ねて表現したものは、工事出来高の進捗状況が把握しやすい。

- [No. 34] 品質管理の用語に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
1. 特性要因図とは、結果の特性とそれに影響を及ぼしている要因との関係を示す図に体系的にまとめたものである。
  2. 見える化とは、問題、課題、対象等をいろいろな手段を使って明確にし、関係者全員が認識できる状態にすることである。
  3. 管理項目とは、目標の達成を管理するために、評価尺度として選定した項目のことである。
  4. QCDSとは、計画、実施、点検、処置のサイクルを確実に、かつ、継続的に回して、プロセスのレベルアップを図る考え方である。

- [No. 35] 工事現場における試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
1. 鉄筋のガス圧接部のふくらみの直径の測定は、デジタルノギスを用いて行った。
  2. フレッシュコンクリートのスランプの測定は、スランプゲージを用いて行った。
  3. 外壁タイル張り後のタイル接着力試験は、油圧式簡易引張試験器を用いて行った。
  4. 硬質ウレタンフォーム断熱材の吹付け作業中の厚さの測定は、ダイヤルゲージを用いて行った。

[No. 36] 鉄骨工事の検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. トルシア形高力ボルトの本締め完了は、ピンテールの破断とマーキングのマークのずれによって確認した。
2. スタッド溶接の合否は、打撃曲げ試験によって確認した。
3. 溶接部の欠陥であるブローホールは、目視によって有無を確認した。
4. 溶接後のビード外観は、目視によって表面の不整の有無を確認した。

[No. 37] 型枠支保工の組立て等作業主任者の職務として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

1. 作業中、保護帽の使用状況を監視すること。
2. 作業を直接指揮すること。
3. 器具及び工具を点検し、不良品を取り除くこと。
4. 型枠支保工の組立図を作成すること。

[No. 38] 足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 折りたたみ式の脚立は、脚と水平面との角度を75°以下とし、開き止め具が装備されたものを使用した。
2. 移動式足場（ローリングタワー）の作業床の周囲には、高さ10cmの幅木と高さ90cmの中棧付きの手すりを設けた。
3. 単管足場の建地間隔は、桁行方向、梁間方向ともに、2mとした。
4. つり足場の作業床は、幅を40cmとし、隙間がないように敷きつめた。



※ 問題番号 [No. 39] ~ [No. 42] までの4問題は能力問題です。全問題を解答してください。

[No. 39] 鉄骨の加工に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 鋼材の加熱曲げ加工は、青熱脆性域で行った。
2. 鋼材のガス切断は、自動ガス切断機を用いた。
3. 板厚が13 mm以下の鋼材のアンカーボルト孔は、せん断孔あけで加工した。
4. 高力ボルトの孔径は、高力ボルトの公称軸径に5 mmを加えた値とした。

[No. 40] 鉄筋コンクリート造建築物の解体工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 解体作業に先立ち、各種設備機器の停止並びに給水、ガス、電力及び通信の供給が停止していることを確認した。
2. 壁及び天井のクロスは、せっこうボードと一緒に撤去した。
3. 騒音防止やコンクリート片の飛散防止のため、全面をメッシュシートで養生した。
4. 各階の解体は、中央部分を先行して解体し、外周部を最後に解体した。

[No. 41] 屋上アスファルト防水工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. ルーフィング類は、水上部分から張り付け、継目の位置が上下層で同一箇所にならないようにした。
2. ルーフドレン回りの増張りに用いるストレッチルーフィングは、ドレンのつばに100 mm程度張り掛けた。
3. 保護コンクリートの動きによる立上り防水層の損傷を防止するため、成形緩衝材を立上り入隅部に取り付けた。
4. 保護コンクリートの伸縮調整目地の深さは、保護コンクリートの厚さの $\frac{1}{2}$ とした。

[No. 42] ビニル床シート張りの熱溶接工法に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 張付け用の接着剤は、所定のくし目ごてを用いて均一に塗布した。
2. シートの張付けは、空気を押し出すように行い、その後ローラーで圧着した。
3. 継目の溝切りは、シート張付け後、接着剤が硬化する前に行った。
4. 溶接継目の余盛りは、溶接直後に削り取った。

※ 問題番号 [No. 43] ~ [No. 50] までの8問題のうちから、6問題を選択し、解答してください。

[No. 43] 建築確認手続き等に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 建築主は、原則として、工事完了から4日以内に、建築主事に到達するように完了検査を申請しなければならない。
2. 建築主は、工事現場の見やすい場所に、国土交通省令で定める様式によって、建築確認があった旨の表示をしなければならない。
3. 施工者は、建築確認申請が必要な工事の場合、設計図書を工事現場に備えておかなければならない。
4. 建築主事は、工事の完了検査の申請を受理した場合、その受理した日から7日以内に検査をしなければならない。

[No. 44] 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 階段に代わる傾斜路の勾配は、 $\frac{1}{8}$ を超えないものとする。
2. 下水道法に規定する処理区域内においては、污水管が公共下水道に連結された水洗便所としなければならない。
3. 集会場の客用の屋内階段の幅は、120 cm以上とする。
4. 建築物に設ける昇降機の昇降路の周壁及び開口部は、防火上支障がない構造でなければならない。

[No. 45] 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 一の都道府県の区域内にのみ営業所を設けて営業をしようとする場合は、原則として、当該営業所の所在地を管轄する都道府県知事の許可を受けなければならない。
2. 建設業の許可は、5年ごとに更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力が失われる。
3. 指定建設業と定められている建設業は、7業種である。
4. 一般建設業の許可を受けた業者と特定建設業の許可を受けた業者では、発注者から直接請け負うことができる工事の請負代金の額が異なる。



[No. 46] 建設工事現場に置く技術者に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 国又は地方公共団体が発注する建築一式工事以外の建設工事で、請負代金の額が3,000万円の工事現場に置く主任技術者は、専任の者でなければならない。
2. 共同住宅の建築一式工事で、請負代金の額が8,000万円の工事現場に置く主任技術者は、専任の者でなければならない。
3. 主任技術者は、工事現場における建設工事を適正に実施するため、当該建設工事の施工に従事する者の技術上の指導監督の職務を誠実に行わなければならない。
4. 下請負人として建設工事を請け負った建設業者は、下請代金の額にかかわらず主任技術者を置かなければならない。

[No. 47] 次の記述のうち、「労働基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 使用者は、妊娠中の女性を、地上又は床上における補助作業の業務を除く足場の組立ての作業に就かせてはならない。
2. 使用者は、満18歳に満たない者について、その年齢を証明する戸籍証明書を事業場に備え付けなければならない。
3. 未成年者は、独立して賃金を請求することができる。
4. 親権者又は後見人は、未成年者に代って労働契約を締結することができる。

[No. 48] 建設工事の現場において、元方安全衛生管理者を選任しなければならない就労する労働者の最少人員として、「労働安全衛生法」上、正しいものはどれか。

ただし、ずい道等の建設の仕事、橋梁の建設の仕事又は圧気工法による作業を行う仕事を除くものとする。

1. 20人
2. 30人
3. 50人
4. 100人

[No. 49] 解体工事に係る次の資材のうち、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」上、特定建設資材に該当しないものはどれか。

1. 木造住宅の解体工事に伴って生じた木材
2. 公民館の解体工事に伴って生じたせっこうボード
3. 事務所ビルの解体工事に伴って生じたコンクリート塊及び鉄くず
4. 倉庫の解体工事に伴って生じたコンクリートブロック

[No. 50] 次の記述のうち、「道路法」上、道路の占用の許可を受ける必要のないものはどれか。

1. 歩道の上部に防護構台を組んで、構台上に現場事務所を設置する。
2. 道路の上部にはみ出して、防護柵（養生朝顔）を設置する。
3. コンクリート打込み作業のために、ポンプ車を道路上に駐車させる。
4. 道路の一部を掘削して、下水道本管へ下水道管の接続を行う。